

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 長野県 茅野市立永明小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 391-0002

長野県茅野市塚原 1-7-40

E-mail eimei.es@suwa-ngn.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 323名 女子 279名 合計 602名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は今年度、ユネスコスクールとして認定を受けた。看板は6月に送られてきて、学校長より全校児童に紹介をした。そこで、これまでの教科等年間指導計画の評価規準をESDの視点でとらえなおし、カリキュラムづくりに取り組んできた。

本校は学校目標を『ともに拓く』～なかよく・かしこく・たくましく～とし、「つむぎ合い」を教育活動の中心にして、取り組んでいる。今までの教育活動をESDの視点で捉え直すことで、他者や過去との関係性を認識し、本校が教育目標として掲げる、関わり・つながり・つむぎ合いを尊重できる子どもの育成を願って取り組んでいる。

具体的には、①世界寺子屋運動の書き損じはがき集めに係わる活動、②縄文科に係わる学習を行った。

①世界寺子屋運動の書き損じはがき集めに係わる活動

ハガキ回収ボックスを置き二月初旬までに 300 枚を超える書き損じはがきが集まり、ユネスコ協会より感謝状をいただいた。事実を知り、興味をもち、自分のできることから行動に移そうとする姿が見られた。また、自分たちの活動が世界へと繋がっていることを感じる事ができた。

②縄文科に係わる学習

校区内の茅野駅には大きな国宝土偶の銅像があり、電信柱に土偶が写された旗がつり下げられていたり、バスやマンホールにも縄文時代を彷彿とさせる絵が描かれていたりする。茅野市は、通称「縄文のビーナス」「仮面の女神」と呼ばれる二体の国宝土偶が出土している国内でも例を見ない所で、市内全小中学校で生活科や総合的な学習の時間を中心に「縄文科」と銘打って、地域素材を学習材として、地域学習に取り組んできた。本校では縄文科の学習のスタートとして茅野市で作られた「縄文かるた」で遊んだり、縄文考古館を見学したりすることを通して、縄文時代の人々の生活やここまで研究してきた方のことを学んだ。3学年では、『火を使っていた』という点から「火起こし」を中心活動として取り組んだ。班ごとに火起こしに取り組む際、1人で火きり弓を押し回し続けることはとても大変なことに気づき、協力し合って交代しながら回したり、火きり板を押さえたりしていた。火を着けることは簡単ではないこと、協力や協働なくしては着けられないことについて実体験を通して学んだ。



「ユネスコスクールに認定されました。」



①「書き損じはがきの回収にご協力くださりありがとうございました。学校に行けない子どもたちが読み書きを学び、安全でよりよい生活をめざすための教育活動に使われます。」



②「縄文の人たちも火をおこせた時はうれしかっただろうな。」
「一人だけでは無理。協力していたと思う。」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ 縄文かるた・ DVD「世界寺子屋運動ってなに」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

来年度から学年の指導計画に各教科横断的なつながりを付け加え、ESDカレンダーとする。

来年度の生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画に、SDGsの視点がねらいとなっているものを、シンボルマークで示す。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

来年度より取り組んでいきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

来年度より取り組んでいきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

添付した“「縄文科」学習におけるESD実践“のポスターを、信州ESDコンソーシアムの『成果発表&交流会』で掲示した。そこで多数の質問をいただき、魅力ある学習活動になっていることと、本校の確かな歩みを確認することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

諏訪ユネスコ協会会長に来校いただき、全校集会で世界中には公的教育を受けられない小学生がいることや、書き損じハガキがどのような物と換えられてどのように手助けになるかをお話していただいた。ハガキ回収ボックスを昇降口に置き、2月初旬までに300枚を超える書き損じはがきが集まった。

市内には、諏訪東京理科大学があり、ICT教育やPTA活動等で連携をしている。

信州ESDコンソーシアムに入会し、『成果発表&交流会』へ参加した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

大牟田市で行われたユネスコスクール全国大会に参加し、それぞれの学校の代表の方と少しお話しすることができた。具体的なネットワークは未だできていないが、特に長野県内の学校とは交流を図っていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「永明の日」の「全校つむぎ合い講座」では、毎年全校児童と保護者・地域の方々に講演会を催している。ユネスコスクールに認定されたことで、世界とのつながりをテーマに講師選定をした。永明小を卒業した親子とベルギー出身のご主人のご家族3人に依頼し、「やってみなければ わからない」～日本や外国でチャレンジしてわかったこと～と題して講演していただいた。映像を使って子どもたちにもわかりやすい話をしてくださり、好評を博した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

全学年が縄文科の学習を通して、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。知恵を働かせ、協力して生活していた素晴らしさを体験を通して学ぶ。

ESDの理念や「接続可能な開発目標（SDGs）」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。

- ・ESDカレンダーの策定。
- ・ファーストリテイリング “届けよう、服のチカラ” プロジェクト
- ・ユネスコ協会の取り組みとして行っている書き損じはがき回収の協力